第 20 期京都教師塾　塾生通信

学びの広場

京都市教育委員会
教員養成支援室
令和７年10月25日　No.2

第 20 期　京都教師塾　入塾式

第 20 期京都教師塾は、入塾者 197 名でスタートしました。10 月 11 日(土)に実施した入塾式では、塾生一人一人の真剣な眼差しと姿勢から、『教師になる』という目標に向かって歩み始める強い意志が感じられました。

塾生代表による入塾宣言では、「『最後まであきらめずに努力することが夢や目標の達成につながる』ということを子どもたちに伝えられる教師になりたい」という一文がありました。この言葉は、まさに、これから京都教師塾で学んでいく塾生の学びの姿勢に重なる部分もあるのではないでしょうか。

京都教師塾は京都市以外の教員志望の方も歓迎する『開かれた学びの場』であり、教員として『生涯にわたり学び続ける姿勢を育む場』であることが、教育長や塾長の式辞の中でも語られました。講師の方のお話から学びや気付きを得るとともに、多様な他者と語り合う中で、様々な見方や考え方に触れ、自身の教育観を深めていってほしいと思います。

６か月後、卒塾を迎えるその日には、今よりも成長した自分に出会えるよう、一回一回の学びを大切に、歩みを進めていきましょう！

第１回京都市教育学講座　教育委員会事務局特別顧問　荒瀬　克己　先生
『これからの学校教育と教師の学びの姿　～京都教師塾開講にあたって～』

第１回の教育学講座は、教育委員会事務局特別顧問　荒瀬克己先生をお迎えし、ご講義いただきました。

講義の冒頭では、「メンタルが強くない」「緊張しがち」といった塾生が抱いている教職への不安や心配に触れ、そういった自分の姿を否定するのではなく、不安を抱えている自分自身を客観視し、どうすれば克服できるのか考え、実行し、振り返って工夫していく。そのようにして、努力を積み重ねていこうとすることこそが、教職を目指す者にとって大切であると伝えてくださいました。

また、「学校は何のためにあるのか？」という本質的な問いから始まり、一人一人の〈児童／生徒〉が自分のよさや可能性を認識することができるようにすることが、学校の大事な働きとおっしゃいました。「自分には何ができるのだろうか？」「何かの役に立っているんだろうか？」「自分はここにいていいのだろうか？」そうした子どもの思いに対して、あなたは大切な一人だといったことを周りの人が気付かせる、その行為が評価である。そして、評価は相手を否定するものではなく、相手への応援でなければならないと説かれました。日々の教師の言葉かけや子どもに向き合う姿勢の中にこそ、子どもを支え、応援し、気付きを促す評価の力が宿っています。そうした教師の応援の言葉や姿勢が届いたときに、子どもたちが自分のよさや可能性を気付くことができるとともに、その気付きを得ることができて初めて、自身で気付き→考え→行動することができる「自立に向けた歩み」につながるということを学ぶことができました。

講義を通して、荒瀬先生が投げかけてくださった問いの一つ一つは、教職を目指す塾生が、教育の根幹について深く考えるきっかけとなるものばかりでした。折に触れて、この講義の中でてきた問いに立ち返り、皆さんの教育観を磨くことにつなげていってほしいと思います。

仲間のレポートに学ぶ

このコーナーでは、「レポート集」に綴られた
素晴らしい学びの１ページを紹介します。
ぜひ、仲間の学びにふれてみてください。

今回の講義では、同じ教員を目指す仲間の不安や現状、そして教育現場のこれからについて改めて考えるきっかけとなった。講義の中で印象に残っているキーワードは、評価と、学習意欲についてだ。評価は、これまで子どもたちが授業内で出来る様になったことや発言などを見取り、ある基準に基づいて判断するものであると考えていたが、評価は朝登校してきた時からできるものであり、相手への応援になるものでなければならないということを学んだ。児童の成長の支えとなるもの、そして応援となる評価をこれから実践していきたいと思う。しかし、分散会でのグループディスカッションでもあったが、どんなことに対しても褒める、応援する評価ばかりをしていたら、自己肯定感が上がり学習意欲に繋がるとは思うが、成長には繋がらないのではという意見になった。できた事を褒めて、これからどうすればもっと先のことができる様になるのかを自分で考えられる声掛けなどの支援も、評価と同時に必要であると考えた。先述した学習意欲についてだが、自分の興味関心がある内容については、自分で疑問を持つため学習内容が知識として定着する。それ以外は何のために学習しているのかという学習の目的がはっきりしていないと学習意欲には繋がらないと考える。児童が毎単元毎授業で学習意欲をもって授業に取り組むことが出来る様にするために次の２つを考えた。１つ目は、児童個人の興味関心を出来る限り把握した授業づくりをすること。２つ目は、授業の初めにその内容に興味が湧くような導入(動機付け)を工夫することだ。日常を通して子どもたちを見取ることがそれらに繋がると思う。今回の学びをしっかり実践したいと思う。

入塾おめでとうございます。まず入塾願書を読ませていただきました。日頃から意識を高く持ち、仲間とチームとして取り組む素晴らしさや、自分にできることを探し実行に移せるといった長所をこれからもぜひ発揮していって欲しいですね。講義からは、「評価と、学習意欲」が印象に残ったようですね。分散会でのディスカッションを通して、できたことを褒めるとともに、これからどうすればもっと先のことができるようになるのかを自分で考えられる声掛けなども同時に必要であると、新たな気付きを得ることができたのですね。こちらの内容も、今後に繋がる大切なことで、日常を通して子どもを見ていく事の大切さ、意味が考えられていますね。講義も分散会も、新たな価値観に出会える可能性がある「学びの場」となります。これからますます学びが深められていくことを期待しています。

～クラス担当スタッフからのコメント～

分散会の様子

初めは、緊張した面持ちも見られましたが、塾生１人１人が「笑顔」「傾聴」「頷きや相槌」などを意識し、和やかに発言しやすい雰囲気をつくろうとしていた姿が印象的でした。ファシリテーター役の塾生も、教師塾では初めてのグループディスカッションにもかかわらず、「具体的には？」「他には？」「「もう少し詳しく聞きたいことは？」と、対話を【つなげる・広げる・深める】ための問いかけをしながら進めることができました。様々な校種・職種、大学の人たちとの対話を通して、新たな見方や考え方を得ることができると、改めて実感していた塾生も多く見られました。

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「子どもを共に育む京都市民憲章」を実践しましょう！
京都はぐくみ憲章